

東北支部より御礼とお願い

日本音楽療法学会東北支部 支部長 智田邦徳

2011年3月30日

この度の東日本大震災に際しまして、全国からたくさんのお見舞いと激励をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

震災から数週間を経た現在も、被害の全容がつかめていないのが実情です。支部会員の他にも家を無くされた方、親戚の安否が不明の方、仕事先の職員や生徒たちと連絡がとれない方がたくさんいます。以前のような日常に戻ることができるのか、全く先が見えず途方に暮れている状態です。不安やストレスで体調を崩す方も少なくありません。

津波の被害の大きかった三陸の町には、私も頻りに訪れておりました。リアス式海岸を望む港町の公民館で、高齢者の皆さんと「あざみの歌」を歌った際、私が「あざみの花を見たことない」と言ったら、一人の女性が急いで庭からあざみを一輪摘んで、濡れたティッシュとアルミホイルに包んできてくださったことを思い出します。公民館とあざみの咲く庭と、あの時の皆さんが無事だったのかどうか、確認する術はまだありません。ただただ、無事を祈るばかりです。

東北在住の音楽療法士としては、早く現地を訪れて音楽で人々を慰めたい、力になりたい…と気が急いでいますが、被災地ではまず生きること、町を立て直すこと、日々の営みを取り戻すことが優先されております。人に頼ることや弱音を吐くのが不得手な東北の人々が、音楽に耳を傾ける余裕が出来る時期を、辛抱強く待たなければなりません。その間に出来ることは、我々自身も被った心の傷を自覚し、他者に音楽を届けられる状態に復元する努力と、音楽療法開始のその日に向けた入念な準備です。安全な土地に避難された方々に向けた活動をすでに開始された方もいて、そちらのサポート体制作りは早急に行いたいと思います。

全国の皆様にお願いがあります。被災地にいる我々は、傍から見たらもどかしく思うほどのゆっくりとしたペースでしか動けないかもしれませんが、自力で立ち上がり自力で前に進んでいくのを、どうかあたたかく見守っててください。我々も焦る気持ちを抑えながら、早くゴールするためにゆっくりと確実に歩を進めてまいります。足りない知識や知恵を皆様に拝借しなければならないことも、いずれあると思いますので、その時はどうか助けてください。実力と志のある有能な音楽療法士が、この土地での仕事の機会を失っている場合は、どうか相談に乗ってください。やがて世間の関心が地震や津波から離れていく時期も来るかと思いますが、長期的に皆様の耳と心をこちらに向けてくださると有難いです。

未曾有の天災からの復興は困難で、長く険しい道のりではありますが、一丸となって前進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。